

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」
団体名	川越シニア大学『小江戸塾』
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	この講座は、生涯学習ボランティアとして、公民館や学校での体験学習・支援活動に関わり、子どもたちに知識・技術・知恵を伝承する人材育成のため、川越の「歴史・文化・自然」等を学習し、あわせて仲間づくりをおこなうものです。
事業の実施内容	この講座は、川越に関する著名な先生方を講師に迎え、基礎学習を行い続いて受講生主体のグループ活動を実践するものです。 ① 期間・回数：7月10日～12月11日12回 ② 時間：午前9時30分～午後3時30分 ③ 会場：市民会館 他 ④ 受講料：4,000円 ⑤ 対象：川越在住 55歳以上 ⑥ 12回中9回以上出席者には修了証書授与
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ① 講座全体の企画・準備・運営 ② 受講生に対する支援・指導 ③ 全体の安全管理 川越市の役割 ① この事業に対する財政支援 ② 講座全体の企画・運営に対する助言 ③ 会場・講師陣確保に関する支援並びに受講生募集に関する支援（広報・募集受付）
事業の成果	①市の後援・協働事業・協働事業であり多数（30名）の受講生を得られた ②以前に比べ質の高い受講生が多く、全体として活気がある講座が展開できた。 ③成果発表の出来栄も非常によく、公民館・学校支援に活用できるものが多かった。 ④すべての先生方の講義・現地見学ともに受講生の評判もよく、再度受講したいという意見も多かった。 ⑤25名の修了者中19名の方々が『小江戸塾』に入会していただいた。ニューパワーを得て今後の『小江戸塾』の活動が楽しみである。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	平成25年度協働事業として実施し、大きな成果を挙げる事ができた。今後も継続して、協働事業として実施する方針であります。特に問題はありませんでした。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	この事業は従来、文化振興課主催の事業でした。24年度から協働事業として小江戸塾が主催することになった補助金前提の事業であります。補助金の継続を切にお願い申し上げます。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	南古谷ウインド・オーケストラ 第3回定期演奏会
団体名	南古谷ウインド・オーケストラ
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	地域の新しい音楽文化の育成と振興、そして心豊かな人間形成を目的とする。楽器を奏でる人とそれを聴いて楽しんでいる人とが一体となり、互いが一つのことを共有できることの楽しさや、喜びを感じられる心の成長と豊かな感性を持てることにより、生涯学習の振興及び地域コミュニティの活性化に役立つことにも寄与する。
事業の実施内容	○平成25年1月から月に2～5回の練習を開始。 練習日 1/26 2/2 2/16 3/9 3/16 4/6 4/13 4/20 4/27 4/29 5/11 5/25 6/8 6/29 7/6 7/13 7/14 ○南古谷ウインド・オーケストラ 第3回定期演奏会 実施日時：平成25年7月15日（月）午後2時から4時30分まで 実施場所：東邦音楽大学 グランツザール ※入場無料 入場者数：598人（うち、アンケート回答者125人）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・地域内における人的・知的資源を活用した音楽文化の育成と振興。 ・演奏会を通じて、地域の子ども同士や幅広い年齢層の大人との交流を図る。 ・演奏技術の向上 ・地域の子どもから大人までの幅広い層に音楽の楽しさを周知する。
	川越市の役割 ・広報協力 ・事業周知等に関するアドバイス ・地域コミュニティに関するアドバイス ・他団体との連携、協力
事業の成果	東邦音楽大学（川越キャンパス）グランツザールで、南古谷地区の中学生等による単独の演奏会を実施したことで、良質な音響会場で幅広い年齢層の方に音楽の楽しさや懐の深さが伝わり、音楽文化の向上に寄与できたのではないかと考えています。特に第3回目の定期演奏会となった今年は中学生の意識が定期演奏会で素晴らしい演奏をしたいとする意識の向上が顕著でした。聴衆は市内各地から訪れて頂いたが、中学生やその保護者が多くなってきたため、年齢層が幅広く感じたように感じられた。また、演奏会に向けて数か月前から月に2回～5回程度の練習を実施していますが、この練習会を通じて楽器を教える大学生と教わる中学生との交流等も深さが増し、中学生にとっては楽器の演奏技術の向上だけでなく異なる立場の人と触れ合え、豊かな人間形成につながったのではないかと思います。 この演奏会の実施にあたりまして、地域住民の協力はもとより、中学生演奏者の保護者にも携わってもらい、この事業を通じて地域コミュニティ活動の更なる活性化にも寄与したものと考えています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	東邦音楽大学と南古谷地区が連携し、互いに無償の行為とし地域の中学生主体の楽団として発足し、丸8年に成ろうとしています。招待演奏などは楽器や楽団員の送迎は生徒の保護者や地域のボランティアで行っているが、楽団の充実の面から定期演奏会は是非とも開催したいが、自己資金の確保が難しく、保護者や地域との話し合いが必要であると思っています。また、今後は全市内の中学生にも参加の道筋を作ることが必要と考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	協働事業としては今年で3年目であり、補助金が終了となります。定期演奏会は今後は是非とも継続してゆきたいと考えております。行政の良きアドバイスをお願いします。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	かわごえ国際交流フェスタ2013
団体名	かわごえ国際ボランティアの会
市担当課名	文化スポーツ部 国際文化交流課
事業の目的	国際交流と異文化理解並びに国際ボランティア活動に対する啓発を行う。
事業の実施内容	<p>○「かわごえ国際交流フェスタ2013」の開催</p> <p>開催日時：平成25年11月10日（日）午前10時から午後4時 開催場所：蓮馨寺 参加人数約2500人 実施内容：会場内にてパネル展示、パンフレット、料理、民芸品などを通じて、各団体がかかわる国の文化や、団体の活動内容を紹介した。また広場にて民族音楽や踊り等を披露し、異文化を市民に楽しんでもらった。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 実施全般における運営、参加団体との連絡調整
	川越市の役割 機材（テント、机、椅子、パネル）の貸し出し。
事業の成果	<p>昨年に引き続き、蓮馨寺を会場としたので開催条件が良く、また7回目の開催ということで市民への認知度も高まったためか、昨年よりも多くの来場者があり、多くの市民に異文化に触れてもらうことができました。テント、パネル等を使って、訪れた市民の皆様にご各ブースでの交流や民族音楽などといった異文化交流パフォーマンス等を十分に楽しんでもらうことができたものと認識しています。</p> <p>結果として、この事業を実施したことにより、市民の異文化理解、国際ボランティア活動への関心を高めることができたと考えています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>今年はテント、机が不足しましたので、機材の充実が最重要課題であると思います。また広報活動が足りなかったとの反省から、その点での協働もできたらと考えています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>継続して事業を実施していきたいと考えていますが、他の補助金を検討するか、規模を大幅に縮小せざるを得ないと思います</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越市男女共同参画検定「あなたもリーダーになろう」
団体名	一般社団法人 参画社会地域フォーラム
市担当課名	市民部 男女共同参画課
事業の目的	川越市の男女共同参画を推進するため地域のリーダーとなる人材を育成する。
事業の実施内容	<p>○川越市男女共同参画検定講座「あなたもリーダーになろう」の実施</p> <p>実施日時：平成26年1月11日（土）、12日（日）午後1時～16時45分 実施場所：やまぶき会館 A会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画知識の啓蒙として1日目（1月11日）は講義、2日目（1月12日）は広範囲にわたる前日の講義のまとめとして、最低限必要な必須基礎知識を学習し、その必須基礎知識をどの程度理解したかを調べる検定を行った。 ・研修だけに終わらず、基礎知識習得度の検定を行うことにより、より知識を記憶させるというリーダー養成の事業である。検定終了後も問題検討会を行った。 ・検定合格者には検定合格証書と研修終了証書を交付した。（最終参加者21名） ・11日の講義時間は45分講義4コマ。12日の基礎知識まとめ学習は45分講義1コマ。検定は30分間。問題検討会45分1コマ。合計6コマ半実施した。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ①事業の周知、②講師の選定、講座参加者の募集、会場の確保、資料の作成等。③講座の実施（基礎知識検定含む）
	川越市の役割 ①講座の市広報及びホームページでの市民への周知、②関係団体への情報提供、③検定修了者への男女共同参画人材リストへの登録。
事業の成果	①講座参加者は定員20人を充足した22人であり（親族に不幸があつて2日目を欠席した1人を除くと最終までの参加者は21人）、講座参加者数においても成果があつた。 ②参加者層は内閣府が進めている若手の人々が半数以上であり若手の参加者数においても成果があつた。（10代4人、20代4人、30代4人、40代4人、50代0、60代3人、70代2人） ③もっとも成果があつたのは最後まで講座に参加して検定を受けた者21人の検定成績は全員80点以上であり、知識普及の成果があつた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	継続する場合の課題は特にありません。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金が終了した場合でもこの事業の継続は可能です。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域のコミュニティーづくり「お手伝いし隊」活動
団体名	かわつる三芳野団地「お手伝いし隊」
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	「お手伝いし隊」の事業は、かわつる三芳野団地内の高齢住民を対象として、ご家庭内外の各種お手伝いを行うことを主な目的としています。また、サロン活動により、住民のコミュニケーションを図ることも目的としています。（市社協、障害者団体などからの協力依頼にも可能な限り対応します。）
事業の実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種支援活動 ご家庭内外で発生し、居住者だけでは対処できない高所作業・重量物移動・お買い物・病院への送迎・非常時の連絡などの対応をした。 2. サロン活動 健康吹き矢教室・映画鑑賞会・懇談会などを定期的に行い、参加者同士のコミュニケーションを図った。 3. 研修会の実施 他の地域の団体と交流し、活動の参考とするとともに外部とのコミュニティーも図った。 4. その他 社協などからの要請により、ボランティア活動に参加協力した。
事業実施時における市との役割分担	【提案団体の役割】 ①地域住民（高齢者）の安心・安全の確保、②地域住民のコミュニティー促進、③「自助」「公助」の間の隙間を埋める「共助」の取組推進。
	【川越市の役割】 ①市の施策の情報提供、②他団体の情報（活動）提供、③市の関連部署への連絡調整、④広報
事業の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・お買い物・図書館などへの車による送迎（22回） 2. 家庭内外のお手伝い（樹木の手入れ・機器類修理・パソコン修復指導・高所作業・不燃物処分） 3. ゴミ・資源物の排出（数軒×毎月）＝合計：約70件 4. 映画鑑賞会（毎月＝12回）、吹き矢教室（隔月）、懇談会 5. 広報紙発行＝6回 6. 社協の事業支援（高齢者のパソコン教室＝2回（5日））、小中学校の福祉授業支援（ガイド・車いす体験） 7. 地域包括支援センターとの交流会参加 8. 他団体交流（ふじみ野市「支え愛」） 9. 講座開催支援（介護の話：支援センター、振り込め詐欺対策：県警） 10. 東日本大震災地への義援金集め（古本市を開催）
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	他団体との交流や情報収集ができなかったため、今後はもっと具体的な目標を定める必要がある。また、当会の運営責任者（コーディネーター役）の育成が課題ですが、今後、ますます高齢化が進むので、ぜひとも継続していきたいと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	活動を行うための経費は、それほど必要がないと思われるが、今後活動をさらに充実するためには、一定の予算確保は必要であると考えます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	保育園年長児への環境教育「森のムッレ教室」
団体名	こどもの根っこを育てる会
市担当課名	こども未来部 保育課
事業の目的	自然に触れ、自然を身近に感じるといった野外における自然体験は、自然（環境）保全行動を起こす動機を形成するだけでなく、知的好奇心や集中力、創造力などをも形成します。生涯にわたる人格形成の重要な時期である幼児期の5,6歳児（年長児）に対して、自然体験型環境教育を行うことで、自然を身近に感じるようになることおよび保全行動する環境人の育成を目的としています。
事業の実施内容	<p>○森のムッレ教室の開催（平成25年9月13日～12月9日）</p> <p>4つの保育園（川越市立中央保育園、仙波町保育園、新宿町保育園、南古谷第二保育園）の年長児を対象に仙波河岸史跡公園で、各園3回ずつ森のムッレ教室を開催。</p> <p>●1回目の教室テーマ「土に戻るゴミ、戻らないゴミ」 公園のゴミを拾ってきてもらい、そのゴミが土に戻るゴミか否かを問いかける。自然遊びのマナーを身につけると共に、虫探しを楽しみながら、土に戻るための虫の役割や物質循環について学ぶ</p> <p>●2回目の教室テーマ「生態系ピラミッド」 虫探し・葉っぱ拾いをしながら生態系ピラミッドを作る。植物・生物どれ一つかけても、生態系は崩れてしまうことを遊びを通して学び、人間も含め自然は共生しながら成り立っていることを学ぶ</p> <p>●3回目の教室テーマ「葉っぱ観察、木の顔探し」 ルーペで冬芽や葉の観察をし、観察の楽しさを体感。</p> <p>南古谷第二保育園では、年中組の保護者会に、親子参加の体験ムッレ教室を実施。親子で、ルーペで観察をしたり、自然の借り物ゲームをしたり、秘密の袋ゲームをして、自然物を扱った五感を刺激するゲームを中心に自然体験をした。</p> <p>中央保育園では、第2回の森のムッレ教室の時に、年中組・年長組合同参加で開催し、共に活動する中で年長児が、年中児に対して、すでに教わった3つのお約束について教えたり、虫の見つけ方などの自然との付き合い方を教えた。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 幼児むけ環境教育の準備および開催</p> <p>川越市の役割 開催する4園の保育園の選定。（7月の園長会議にて呼びかけ）。自然観察がしやすい公園づくり、幼児むけ環境教育の普及</p>
事業の成果	<p>園児ら全員が、自然の中で遊ぶときの3つのお約束を覚え、意識するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きな声を出さない （自然の中は動物や鳥もいて、脅かさないよう配慮の行為） 2. 草や花は根っこから抜かない （植物も生きているから命を大切にす気持ち） 3. 土に戻らないゴミは捨てない （ポイ捨て禁止マナー、動物が間違っって食べて死んだらかわいそうという思いやりの気持ち） <p>・保護者の方の中には、森のムッレ教室への理解と好評価をいただきました。また、実際に森のムッレ教室に関心を抱き、観察しに来た保護者もいました。</p> <p>・年長児担任の保育士も、日ごろから自然への関心が高まっているようです。</p> <p>・今年度は、年中児の保護者会に親子参加で森のムッレ教室を体験していただき、保護者自身が楽しんで自然観察に参加する様子が伺えました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>現在の協働事業の選考スケジュールは、4月～7月。本来自然観察（特に子供たちが大好きな虫探し・虫遊び）には最適な季節であるが、その季節を活用できません。現在の選考スケジュールを考えると、本活動のような自然体験は、虫が少なくなっていく秋・冬にしか開催できず、自然の教材が少なくなるうえに、子供が風邪で体調をわるくしやすい季節にもなり、開催延期等考慮することが必要になっております。出来れば、前年度中に選考し、補助金活動期間を新年度4月から開始できるようにしていただきたいです。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>森のムッレ教室（環境教育）の活動は今後も続けたいと思っており、取り組む保育園が増え、私立の幼稚園へも広げることをビジョンとして本団体は努力しております。事業委託になるよう、保育課へは提案しているところですが、補助金が終了し、さらには委託も受けられない状況では、まだ自立して活動するだけの見通しがたっておりません。本活動に賛同し、賛助会員として寄付を行う個人や企業等を探していく予定です。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「育てigoキッズ！」事業（子どもに対する囲碁普及事業）
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	子どもと若者に焦点を当て、知的ゲームである囲碁に気軽に楽しく親しめる場を創出し、集中力・思考力・構成力・決断力・変化への対応力・忍耐力といった子どもの人間力を囲碁の力により育む。また、世代を越えた人たちとの交流による学びによって、子どもの健全な育成を目指す。
事業の実施内容	<p>○子ども囲碁教室の開催 「子ども大学かわごえ」と連携し、子ども囲碁教室を7月から毎月1回開催した（2月は雪のため中止）。【囲碁のルール説明、対局を通じた指導、オリジナルテキストの開発、参加カードや対局カードの作成等、楽しく継続できるよう工夫した】</p> <p>○夏休み子ども囲碁教室の開催 生協と連携し「囲碁って面白い！」を実感してもらおうお試し囲碁教室を実施した。</p> <p>○クリスマスイベントの開催 12月にクリスマスイベントとして、子ども囲碁教室の特別企画イベントを実施した。プロ棋士によるゲームを取り入れた囲碁講座やチーム対抗戦、音楽家や合唱団とのコラボによるピアノ演奏やクリスマスソングの合唱などを行った。</p> <p>○マスコットキャラクターを制作 囲碁に親しみをもってもらえるよう、子どもたちの描いた絵を元にマスコットキャラクターを制作し、イベント等で配布する缶バッジも製作した。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生きる力・人間力の育成 ・日本の伝統文化である囲碁の普及活動により、小江戸川越に新たな伝統文化の機運を醸成 <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に対する情報提供、市の関係各課との連絡調整 ・本事業の目的達成に向けたアドバイス
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月子ども囲碁教室では、子どもたちはルールもすぐに覚え、目に見えて上達した。また、20～30代の若手スタッフに加え、60～70代のスタッフとの対局もあり、多様な世代との交流は、双方にとって刺激や学びの場であり、価値を認め合う貴重な体験となった。 ・12月のクリスマスイベントは、囲碁の裾野を広げることを主眼として初心者の親子に呼びかけて実施。様々な趣向を凝らし、大人にも子どもにも楽しんでもらえた。 ・囲碁のマスコットキャラクター制作に当っては、5月の囲碁イベント、子ども囲碁教室、クリスマスイベント等の機会を捉えて子どもたちに囲碁をイメージして絵を描いてもらい、合計50点の作品が集まった。その中から、川越igoまち倶楽部役員・運営委員・会員等の投票で優秀作品を選定、最優秀作を元にマスコットを制作した。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	毎月子ども囲碁教室、夏休み囲碁教室、クリスマスイベントの参加者は延べ40人。しかし、毎月の囲碁教室参加者は少ない状況であり、生徒の確保が課題である。今後、広報活動の拡充、学校への働きかけや出前講座の実施、子ども大学や生協との連携などにより、生徒数を増やしていく必要がある。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	当該事業は重要であるとの認識に立ち、補助金終了後も、会費収入や協賛金・寄付金等を財源として、子ども及び親子に対する囲碁普及活動を継続していく方針である。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	第9回復活！唐人揃いー朝鮮通信使ー多文化共生・国際交流パレード
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	江戸時代に川越氷川祭礼で町人たちが行っていた朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を復活し、朝鮮通信使の善隣友好の精神を現代に生かすと共に、川越の文化遺産を紹介する。また、在日外国人との交流を通じて多文化理解を深める。
事業の実施内容	日時 2013年11月10日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(約20団体400名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所で) 閉会式
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の企画・運営・会計・関係部署との連絡など
	川越市の役割 広報(チラシ・ポスターの配布など)、通行止め機材の提供、川越小学校体育館の使用許可など
事業の成果	今年のパレードは、初参加の韓国人留学生のグループやボランティアとして楽隊の衣装を着て参加してくれた中国人・ネパール人の留学生など、更に昨年に引き続き大人数で参加した埼玉在住のタイ人など国際交流の輪が広がったと思います。 そして、これまでずっと参加しているグループも創意工夫をこらし楽しい充実した多文化共生を実感させるパレードになりました。 神津島村から「おたあジュリア」役の女性、韓国から一昨年に引き続き自転車に参加してくれた人もいます。また、今年も釜山文化財団から代表理事をはじめ5名が見学に訪れたばかりか、韓国の国会議員5名が視察に見え大変名誉なことだと思いました。私たちのイベントが少しでも日韓・日朝間の友好や東アジアの平和につながって行けたらこんなに嬉しいことはないと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	来年は第10回という節目の年になり、私たちが加盟している「朝鮮通信使縁地連絡協議会」(縁地連)の全国交流会が川越で開催されることになり、パレードを含め2日間の開催となります。韓国や日本全国から多くの方が川越を訪れると思いますので、来年も引き続き協働事業として川越市と協力して進めて行ければと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	市民や企業・団体からの協賛金でまかなえるようなパレードをめざします

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	老後の安心・成年後見制度の広報事業
団体名	NPO法人成年後見川越サポートセンター
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	川越市において、広く市民の方に、介護保険制度と同様に老後の生活を支える成年後見制度の重要性を知って頂くために、講座や相談会等を通して、身近に分り易く広報する。
事業の実施内容	<p>【1】成年後見講座の開催（2回）</p> <p>①日時：11月15日（金）午後 場所：クラッセ6階 受講者数：35名</p> <p>②日時：2月19日（水）午後 場所：クラッセ6階 受講者数：39名</p> <p>【2】成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催（奇数月に計4回）</p> <p>①日時：7月24日（水）午後 ②11月13日（水）午後 ③1月15日（水）午後 ④3月12日（水）午後（会場はすべて川越西文化会館）</p> <p>なお、川越産業博覧会に出展予定だったが台風接近で中止となった。（10月26日・27日（土・日）終日、相談会と広報活動を実施予定であった。）</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の周知、高齢者サポート及び障害者サポートのネットワーク構築
	川越市の役割 広報への掲載、市の関係課への連絡調整等
事業の成果	<p>川越市の広報誌に高齢者いきがい課のコーナーで、講座と相談会の開催を掲載して頂き、集客につながり、感謝している。</p> <p>年2回の講座は、11月は「知って得する医療の話」、2月は「エンディングノートに想いを残そう！」と外部講師を招き、基調講演の後に成年後見制度の概要、事例紹介という形式にした。活発な質問が続き、満足度も高かった。受講者も11月が35名、2月が39名と、予想を上回った。</p> <p>相談会も、毎回申込みがあり、奇数月開催が定着した。</p> <p>今後も講座や相談会等の活動を広く発信してゆきたい。</p> <p>10月の川越産博は台風接近により、中止となったが、今後も様々な機会を捉えて、広報活動をしてゆきたい。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>成年後見制度の利用者は大半が高齢者であり、高齢者の周辺を中心に広報してゆくことになる。民生委員等の高齢者の世話をされている方には、必要性を理解して頂けるのだが、なかなか一般の方には認知度が低く、講座でも集客に苦心している。講座や展博等を通じて、地道ではあるが、広報活動を続けてゆきたい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>年に2～3回の成年後見講座の開催。年に6回の成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催。市民が多く集まる場所での広報活動の実施等。今後は川越市を中心に、近隣の市町村へも活動を広げてゆきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化支援事業
団体名	アルテクラブ
市担当課名	都市計画部 都市景観課
事業の目的	川越は、観光の「まち」として昨今多くの人々が訪れるようになりました。そこで観光と融合しながら、市民がまちづくりに取り組んできたプロセスや歴史的建造物の活用、また川越の豊富な歴史や芸術資源を積極的に発信し、アートを媒介としたさまざまな人と文化の交流による新たな「まちづくり」を行う。
事業の実施内容	『あるってアート2013 petit ミュージアムロード to 織物市場 & アートクラフト手づくり市 in 織物市場』の開催 ○実施日時：平成25年11月16日（土）、17日（日）、11時～16時 ○実施場所：旧川越織物市場 ○来場者（2日間）約2,000人 中央通りから、旧川越織物市場までの道を「ミュージアムロード」として、アートフラッグを商店の店頭飾り、ふれあいにぎわいを創り出す場所として展開します。旧川越織物市場は休憩所とアートクラフト手づくり市として、アーティストの作品発表、販売の場とし、旧川越織物市場の活用提案を行いました。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体の役割 NPOアルテクラブの定期的活動において獲得したアーティストの人材を活かし、観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化に寄与する
	川越市の役割 開催場所提供、広報、情報提供等
事業の成果	来場者アンケートでは、毎年開催や年に数回の開催を望む声が多く、また今回出店できなかったジャンルのアーティストの参加を望む声も多く寄せられました。作り手の顔が見え直接話しができ、自分だけの一品にめぐり会える、そんなクラフト市の、人（心と身体）と環境に優しいアーティストの仕事は、私達の日常を豊かで楽しいものにします。何度も何度も見て回る若者達、フラッグWSに参加した小学生がご父兄と来場し、自分が描いた作品の作家さんと出会ったこと。移動カフェのコーヒーや栗ぜんざいで暖を取りながら長い時間を過ごす年配の方々、アーティスト同士の交流など、訪れた市民や観光客の人々が欲する場所がここにありました。 また明治43年に建設された「旧川越織物市場」は、かつて織物と人々が行き交う川越の織物文化を支えた場所でしたが、住宅として転用され、平成13年にマンション計画が公表されたのを契機に保存運動が起こり、平成14年建物市所有となりました。いつの時代にも、その時代のデザインの息吹を現し伝えようと残されてきた歴史的建造物の活用につながるよう、アルテクラブでは様々なアートの展開により、それらの空間特性を表せました。 今回の開催では、「川越織物市場の会」の皆さんによる豚汁のサービスや商店街の書店の臨時ショップが開かれ、同会編集による「川越 商都の木綿遺産」と川越祭りのDVDの販売も行われました。また、運営スタッフとしての多数の大学生の参加もあり、アートクラフトを介在にした幅広い交流が生まれ、地域のなかで歴史的建造物を活用していこうという機運を感じる開催となりました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業として継続する場合、所管する課の問題点は何処にもありません。使用する旧川越織物市場の敷地と建物については、課題があります。今後の課題とは思いますが①入り口L字側溝に段差プレートを設ける②あと数部屋の室内を使用できるとありがたい。③全体で使用できる電気容量を増やしてほしい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	助成が無いと事業が成り立たないので、他の補助金を申請します。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成25年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業
団体名	河越館の会
市担当課名	教育総務部 文化財保護課
事業の目的	この「河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業」は「河越館の会」を中心に、市の文化財保護課及び文化財保護協会のご指導を得ながら、市民の史跡や文化財愛護への理解を深めることを目的としています。
事業の実施内容	<p>○歴史講演会の開催 開催日：平成25年9月21日（土）、開催場所：市立博物館視聴覚ホール</p> <p>テーマ「中世の河越を考える～北武蔵の視点から」 ・演題1：「武蔵国府と秩父氏～大蔵と河越、“カワラケ”から見える鎌倉幕府開府以前の二極構造～」(講師、嵐山町役場 村上伸二氏) ・演題2：「河越館跡と中世瓦～瓦から見た鎌倉後期のモノそしてヒトの交流～」(講師、ときがわ町学芸員 石川安司氏)</p> <p>○河越館の会冊子作成 2月に発刊。冊子内容は、例会資料を整理、フィールドワーク・例会参加記等</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 我々は、国指定河越館跡の周知と啓蒙活動を行うことを目的として活動しています。例会において河越館跡の歴史的背景を勉強しながら、あわせて川越市の史跡・文化財を愛し、理解するよう努力しています。日頃の活動を通して、河越館跡をはじめ、川越市の文化財について発信できる人材の養成に寄与していくことを目指しています。当会の活動の一端は、講演会や冊子などを通じて、川越市民やそれ以外の人にも広く周知しています。ひいては、当会で蓄積された知識情報も、今後ますます外へと発信していき、様々な年齢層に関心を持ってもらうよう努力してまいります(HPも活用していく予定です)。</p> <p>川越市の役割 企画・活動を広報川越での案内。市の後援。講演会への参加。作成した冊子の図書館への架蔵。</p>
事業の成果	<p>市民を対象とした「歴史講演会」は、市立博物館視聴覚ホールをうめるほどの参加者が集いました。今回は、2人の講師をむかえ、両先生の講演とも好評でした。</p> <p>講演会の折に、通常の「河越館の会」への会員募集の他に、賛助会員の募集をしました。その結果、新たに4名の方が入会されました。(賛助会員は、毎月の例会には出席しないものの、例会資料の配布や講演会の案内を希望される方)</p> <p>河越館の会作成冊子を発刊しました(2月28日付)。内容は、当会発足以来の例会資料を整理、河越氏関係年表、当会会員によるフィールドワークスナップの挿入、会員の例会参加記等です。</p> <p>会員に配布するほか、本冊子は、市内図書館に架蔵させて頂き、市民の方にご覧頂きたいと思慮しております。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>講演会等の開催において、会場設定とその後の広報手段と集客数の事前把握による受け入れ準備。</p> <p>会の原資が乏しいため、協働事業補助金が事業経費総額の50%を考慮すると、講演会等開催の場合は講師謝礼が薄謝に成らざるを得ない、今後も指導の両先生のコネクションを利用させて頂く。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	「河越館の会」の年会費からの原資を鑑みると、会員以外の市民等も対象にした講演会等の開催が小規模に成らざるを得ない。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。